



Sun Java System Message Queue 3.7 UR1 リリースノート (Windows 版)



Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 820-1809
2007 年 2 月

本書で説明する製品で使用されている技術に関連した知的所有権は、Sun Microsystems, Inc. に帰属します。特に、制限を受けることなく、この知的所有権には、米国特許、および米国をはじめとする他の国々で申請中の特許が含まれています。

U.S. Government Rights – Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品には、サードパーティーが開発した技術が含まれている場合があります。

本製品の一部は Berkeley BSD システムより派生したもので、カリフォルニア大学よりライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびにほかの国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Solaris のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴマーク、docs.sun.com、Java、Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。Sun のロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPEN LOOK および SunTM Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装するか、または米国 Sun Microsystems 社の書面によるライセンス契約に従う米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

この製品は、米国の輸出規制に関する法規の適用および管理下にあり、また、米国以外の国の輸出および輸入規制に関する法規の制限を受ける場合があります。核、ミサイル、生物化学兵器もしくは原子力船に関連した使用またはかかる使用者への提供は、直接的にも間接的にも、禁止されています。このソフトウェアを、米国の輸出禁止国へ輸出または再輸出すること、および米国輸出制限対象リスト (輸出が禁止されている個人リスト、特別に指定された国籍者リストを含む) に指定された、法人、または団体に輸出または再輸出することは一切禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。

目次

1 Sun Java System Message Queue 3.7 UR1 リリースノート (Windows 版)	5
Message Queue 3.7 UR1 について	6
このリリースの新機能	6
ハードウェアとソフトウェアの要件	9
今回のリリースで修正されたバグ	10
重要情報	11
インストールについての注意	11
互換性について	12
Message Queue 3.7 UR1 に関するマニュアルの更新	12
既知の問題点と制限事項	13
一般的な問題	14
LDAP ユーザーリポジトリのプロパティ	14
ブローカクラスタ	15
管理および設定	15
ブローカの問題	16
マニュアル	17
インストールに関する情報	17
再配布可能なファイル	18
障害を持つ方のためのアクセシビリティ機能	18
問題の報告とフィードバックの方法	18
Message Queue Software Forum	19
Java Technology Forum	19
このマニュアルに関するコメント	19
その他の情報	19

Sun Java System Message Queue 3.7 UR1 リリースノート (Windows 版)

このリリースノートには、Sun Java™ System Message Queue 3.7 UR1 のリリース時点で得られる重要な情報が含まれています。ここでは、新機能、拡張機能、既知の問題、制限事項などについて説明します。Message Queue を使用する前に、このドキュメントをよくお読みください。

このリリースノートの最新バージョンは、docs.sun.com の Sun のマニュアル Web サイトから入手できます。ソフトウェアのインストールおよび設定前だけでなく、以後も定期的にこの Web サイトをチェックして、最新のリリースノートや製品マニュアルをご覧ください。

このリリースノートは、次の節で構成されています。

- 6 ページの「Message Queue 3.7 UR1 について」
- 10 ページの「今回のリリースで修正されたバグ」
- 11 ページの「重要情報」
- 13 ページの「既知の問題点と制限事項」
- 18 ページの「再配布可能なファイル」
- 18 ページの「障害を持つ方のためのアクセシビリティ機能」
- 18 ページの「問題の報告とフィードバックの方法」
- 19 ページの「このマニュアルに関するコメント」
- 19 ページの「その他の情報」

このマニュアルには、その他の関連情報の参照先としてサードパーティーの URL が記載されています。

Sun は、このマニュアルに記載されているサードパーティーの Web サイトが利用可能かについて責任を負いません。こうしたサイトやリソース上またはこれらを通じて利用できるコンテンツ、広告、製品、その他の資料について、Sun は保証するものではなく、Sun はいかなる責任も負いません。こうしたサイトやリソース上の、またはこれらを経由して利用可能な、コンテンツ、製品、サービスを利用または信頼したことによって発生した (あるいは発生したと主張される) いかなる損害や損失についても、Sun は一切の責任を負いません。

Message Queue 3.7 UR1 について

Sun Java System Message Queue は、多くの機能を備えるメッセージサービスで、Java Messaging Specification (JMS) 1.1 に準拠する信頼性の高い非同期メッセージングを提供します。Message Queue では、JMS 仕様を超える機能も用意され大規模企業のシステム配備のニーズにも対応できるようになっています。

Message Queue 3.7 UR1 は Message Queue 3.6 の保守リリースです。バグ修正およびいくつかの小さな機能拡張が含まれます。この節では、次の内容について説明します。

- 6 ページの「このリリースの新機能」
- 9 ページの「ハードウェアとソフトウェアの要件」

このリリースの新機能

次の各節で、Message Queue 3.7 UR1 の新機能について説明します。

- 6 ページの「Platform Edition および Enterprise Edition の機能を 1 つに結合」
- 8 ページの「C-API および C クライアントランタイムのインタフェースの変更」
- 9 ページの「持続ストアの形式の変更」

Platform Edition および Enterprise Edition の機能を 1 つに結合

製品出荷を簡素化するため、Sun Java Message Queue の Platform Edition と Enterprise Edition は、Message Queue 3.7 UR1 から 1 つに結合されました。この方針により、スタンドアロン販売における機能の制限が事実上撤廃され、この製品の操作方法が簡単になります。

版を結合することで Message Queue は Solaris Enterprise System とより協調でき、Enterprise Edition の広範囲におよぶ機能を永続的に使用する権利を、サポートや保守、賠償のない状態で提供できます。前のリリースと同様に、サポートおよび保守サービスについては、いくつかのライセンスオプションを利用できます。Message Queue は引き続き、Java Enterprise System および Application Platform Suite とともにパッケージ化されます。www.sun.com のオンラインストアを確認するか、販売担当者にご連絡いただき、ニーズに最適なオプションをお選びください。次の表は、Message Queue の新しい単一版へのアップグレードのパスを示します。

表 1-1 Message Queue 3.7 UR1 へのアップグレードのパス

以前の版	アップグレードのパス	コメント
Platform Edition	Sun Java System Message Queue 3.7 UR1	顧客はすべての機能を利用できます。ライセンスを購入しないと、サポートオプションは利用できません。

表 1-1 Message Queue 3.7 UR1 へのアップグレードのパス (続き)

以前の版	アップグレードのパス	コメント
Enterprise Edition	Sun Java System Message Queue 3.7 UR1	機能の変更はありません。各種ライセンスおよびサポートのオプションを利用できます。
Platform Edition サポート契約	Enterprise Edition サポート契約へのアップグレード	以前のリリースの Platform Edition 用の既存のサポート契約は、引き続き更新されます。以前の Platform Edition リリースに対して新しい Platform Edition 契約が発行されることはありません。
Enterprise Edition サポート契約	変更なし。	既存の契約は引き続き更新されます。新しい契約が発行されます。

次の表は、さまざまな Message Queue 製品の出荷元の変更を示します。

表 1-2 Message Queue 製品の出荷元の変更点

製品	以前の出荷元	新しい出荷元	コメント
Message Queue	該当なし	Sun ダウンロードセンター製品ページ	スタンドアロンのダウンロード。コミュニティのサポートのみ。サポート契約は利用できません。
Message Queue Platform Edition	Message Queue 製品ページ経由の Sun ダウンロードセンター	利用できなくなりました	すべてのページは、Message Queue の単一版ページへと移動します
Message Queue Enterprise Edition 試用版 (Platform Edition 経由)	Message Queue 製品ページ経由の Sun ダウンロードセンター	試用版ライセンスは不要になりました	不要になりました
Message Queue Enterprise Edition 90 日試用版 (Java Enterprise System ダウンロードまたは CD 経由)	Version 3 GA (2006 年 3 月) 以前の Java Enterprise System ダウンロードセンター	Solaris Enterprise System ダウンロードセンター	Solaris Enterprise System ライセンス。製品ライセンスがない場合は、サポートオプションは利用できません。

表 1-2 Message Queue 製品の出荷元の変更点 (続き)

Java Enterprise System 経由 で出荷された、 SunStore、CD、個別のラ イセンス、Java Enterprise System ライセンス、Suite ライセンス経由の Message Queue Enterprise Edition	Java Enterprise System または Suite ダウン ロードセンター、メ ディア	Solaris Enterprise System 変更なし。 または Suite ダウン ロードセンター、メ ディアフルフィルメン ト
---	---	--

C-API および C クライアントランタイムのインタフェースの変更

■ 新しい関数: MQGetDestinationName()

```
MQGetDestinationName (const MQDestinationHandle destinationHandle,  
                        MQString * destinationName);
```

この関数は、送信先の名前を取得するために使用します。戻り値の destinationName はコピーで、呼び出し元が MQFreeString() 関数を呼び出すことで解放を担当します。

パラメータ

- destinationHandle 名前を取得したい送信先へのハンドル。
- destinationName 名前の出力パラメータ。

この関数は、reply-to パターンを使用する場合に便利です。MQGetMessageReplyTo 関数を使用するとメッセージの送信先へのハンドルを取得できます。次に MQGetDestinationName を使用して、その送信先の名前を取得できます。送信先の名前を取得したら、名前に基づいてメッセージを処理できます。

■ 新しい列挙値: MQ_MESSAGE

新しい MQMessageType と MQ_MESSAGE を使用すると、C クライアントはタイプが Message である JMS メッセージを、C と Java の両方を使用するほかの Message Queue クライアントと交換することができます。

```
typedef enum _MQMessageType {MQ_TEXT_MESSAGE = 0,  
                              MQ_BYTES_MESSAGE = 1,  
                              MQ_MESSAGE = 3,  
                              MQ_UNSUPPORTED_MESSAGE = 2} MQMessageType;
```

MQ_MESSAGE タイプは、ヘッダーとプロパティはあるが、メッセージ本体が存在しないメッセージを識別します。このタイプのメッセージを作成するには、MQCreateMessage () 関数を使用します。

- 新しいコネクションプロパティ MQ_UPDATE_RELEASE_PROPERTY は、Message Queue のインストールバージョンに対する更新リリースバージョンを指定します。MQGetMetaData() 関数を使用してバージョン情報を取得します。

持続ストアの形式の変更

Message Queue では、パフォーマンスを向上させるために持続ストアの形式に2つの変更が加えられました。1つはファイルストアに対する変更で、もう1つは JDBC ストアに対する変更です。

- ファイルストア内のトランザクション情報 - ディスク I/O を軽減し、JMS トランザクションのパフォーマンスを向上させるために、Message Queue ファイルベースの持続ストア内に格納されているトランザクション状態情報の形式が変更されました。
- Oracle JDBC ストア - 以前のバージョンの Message Queue では、Oracle で使用されるストアスキーマでは、メッセージデータを格納するために LONG RAW データ型が使用されていました。Oracle 8 では、Oracle によって BLOB データ型が導入され、LONG RAW 型は使用されなくなりました。Message Queue 3.7 UR1 では、パフォーマンスとサポート性を向上させるために、データ型が BLOB に変更されました。

これらの変更がストアの互換性にも影響するため、ストアバージョンが 350 から 370 に変更されました。Message Queue 3.7 UR1 は、JDBC の持続ストアとファイルベースの持続ストアの両方で、古い 200 および 350 バージョンから 370 バージョンへの持続ストアの自動変換をサポートしています。imqbrokerd を最初に起動したときに、ユーティリティが古いバージョンのストアを検出した場合、古いストアはそのまま、ストアを新しい形式に移行します。

このアップグレードをロールバックする必要がある場合は、Message Queue 3.7 UR1 をいったんアンインストールして、以前実行していたバージョンを再インストールします。ストアの古いコピーはそのまま残っているので、ブローカはストアの古いコピーを実行できます。

ハードウェアとソフトウェアの要件

Message Queue のハードウェアおよびソフトウェア要件は、『Sun Java Enterprise System インストールガイド』で提供されています。

今回のリリースで修正されたバグ

この節では、Message Queue 3.7 UR1 で修正されたバグについて説明します。

表 1-3 Message Queue 3.7 UR1 で修正されたバグ

バグ番号	説明
6193884	Message Queue は、C 以外のロケールで文字化けしたメッセージを syslog に出力します。
6251450	クラスタのシャットダウン時、connectList に ConcurrentModificationException が発生します。
6252763	java.nio.HeapByteBuffer.putLong/Int に java.nio.BufferOverflowException が発生します。
6260076	Oracle ストレージを使用すると、起動後に発行される最初のメッセージが遅くなります。
6264003	キューブラウザにコミットされていないメッセージが表示されます。
6260814	JMSXUserID 上のセレクト処理が、常に false と評価されてしまいます。
6264003	キューブラウザにコミットされていないメッセージが表示されます。
6271876	消費されていないメッセージを含むコンシューマを閉じようとすると、接続フロー制御が正しく動作しなくなります。
6284769	QueueBrowser で、各列挙について新しいブラウザを作成して閉じた場合でもメモリーリークが発生します。
6294767	Message Queue ブローカがネットワークソケットを開く場合、そのネットワークソケット上に SO_REUSEADDR を設定する必要があります。
6304043	ブローカは、clientID が共有非持続性サブスクリプションに対して null ではないことを検証しません。
6307056	txn ログがパフォーマンス上のボトルネックになっています。
6320138	Message Queue C API では reply-to ヘッダーからキューの名前を決定することができません。
6320325	Solaris OS 上に JDK Version 1.4 と JDK Version 1.5 の両方がインストールされている場合、ブローカが JDK Version 1.5 より前に JDK Version 1.4 を検出してしまうことがあります。
6321117	マルチブローカクラスタの初期化で java.lang.NullPointerException が発生します。
6330053	サブスクリバからのトランザクションをコミットする際、JMS クライアントで java.lang.NoClassDefFoundError が発生します。
6340250	C-API で MESSAGE タイプをサポート。

表 1-3 Message Queue 3.7 UR1 で修正されたバグ (続き)

バグ番号	説明
6351293	Derby データベースへのサポートを追加。
6381693	コンシューマのブローカが再起動したあと、リモートコンシューマに再配信されたメッセージの JMSRedelivered フラグが false に設定されます。
6388049	不完全な XA transaction トランザクションをクリーンアップできません。
6403958	コンシューマベースのフロー制御プロトコルを追加し、複数のレシーバに対して負荷分散を許可します。
6405393	デッドメッセージキューがもっとも古い、持続性のないメッセージを削除しようとしたときに、ブローカエラーが発生します。
6406862	ブローカエラー「Monitor destination error mq.metrics.destination.queue.Name」
6415068	AS 8.1 UR2、JMS Message Queue 用の汎用リソースアダプタでトランザクションの復旧が失敗します。
6421781	次の構文を使用したブローカへの接続のサポート -b mqtcp://hostName:portNumber/serviceName
6423696	Session.rollback が、COMMIT REPLY エラーのあとで消費されたメッセージを実際にロールバックしません。
6314103	ディレクトリ名に空白文字が含まれる場合、Message Queue をインストールできません。
6314088 6392963	ディレクトリ名が 6 文字を超えると Message Queue をインストールできません。たとえば、C:\Software\Sun などの場合です。

重要情報

この節には、製品の主要マニュアルには含まれていない最新の情報が含まれています。この節の内容は、次のとおりです。

- 11 ページの「インストールについての注意」
- 12 ページの「互換性について」
- 12 ページの「Message Queue 3.7 UR1 に関するマニュアルの更新」

インストールについての注意

スタンドアロンの製品として、Solaris、Linux、および Windows プラットフォーム上に Message Queue をインストールする場合のインストール前の指示、アップグレード手順、その他の関連情報については、『Sun Java System Message Queue 3.7 UR1 Installation Guide』を参照してください。

インストール前の指示および Solaris、Linux、HPUX、および Windows オペレーティングシステム上の Java Enterprise System にバンドルされている Message Queue 製品のインストールに関連するその他すべての情報については、『Sun Java Enterprise System インストールガイド』を参照してください。

Solaris、Linux、HPUX および Windows オペレーティングシステム上の Java Enterprise System の一部としての Message Queue へのアップグレードに関連するアップグレードおよび移行の指示については、『Sun Java Enterprise System Upgrade and Migration Guide』を参照してください。

互換性について

この節では、Message Queue 3.7 UR1 の互換性の問題を説明しています。

インタフェースの安定性

Message Queue で使用される多くのインタフェースは、時間の経過につれて変更される可能性があります。『Sun Java System Message Queue 3.7 UR1 管理ガイド』の付録 B「Message Queue インタフェースの安定度」では、インタフェースをそれらの安定性に従って分類しています。安定性に優れるインタフェースほど、製品の後継バージョンで変更される可能性は低くなります。

Message Queue の次回のメジャーリリースに関する問題

Message Queue の次回のメジャーリリースでは、クライアントがこのリリースとの互換性がなくなるような変更が導入される可能性があります。この情報は、このような変更に合わせて準備しておくことができるようにするため、ここに記載されています。

- Sun Java System Message Queue の一部としてインストールされる各ファイルの場所が変更される可能性があります。この変更によって、特定の Message Queue ファイルの現在の場所に依存する既存のアプリケーションの動作が中断する可能性があります。
- 3.5 以前のブローカは、これより新しいブローカのクラスタ内では動作できなくなる可能性があります。
- 今後のリリースでは、Message Queue クライアントは 1.3 より前のバージョンの JDK を使用できなくなる可能性があります。

Message Queue 3.7 UR1 に関するマニュアルの更新

次の節では、小さな訂正または追加以外の Message Queue のマニュアルの更新および変更について説明します。

『Installation Guide』

スタンドアロン版の Message Queue に関するインストール情報が記載された『Sun Java System Message Queue 3.7 UR1 Installation Guide』が更新され、プラットフォーム固有の情報が反映されるようになりました。

『Developer's Guide for C Clients』

『Sun Java System Message Queue 3.7 UR1 Developer's Guide for C Clients』が更新され、MQGetDestinationName 関数、MQ_Message メッセージタイプ、および接続プロパティー MQ_UPDATE_RELEASE_PROPERTY の追加が反映されるようになりました。

『Developer's Guide for Java Clients』

『Sun Java System Message Queue 3.7 UR1 Developer's Guide for Java Clients』が更新され、セキュリティ保護されたクライアントの設定および自動再接続時に発生した例外をクライアントが処理する方法についての情報が含まれるようになりました。

『管理ガイド』

『Sun Java System Message Queue 3.7 UR1 管理ガイド』が更新され、ブローカの実データベーステーブルおよび固定ポートを使用するブローカの設定についての情報が提供されるようになりました。

既知の問題点と制限事項

この節には、Message Queue 3.7 UR1 の既知の問題についてのリストが含まれています。次の内容について説明します。

- 14 ページの「一般的な問題」
- 14 ページの「LDAP ユーザーリポジトリのプロパティー」
- 15 ページの「ブローカクラスタ」
- 15 ページの「管理および設定」
- 16 ページの「ブローカの問題」
- 17 ページの「マニュアル」
- 17 ページの「インストールに関する情報」

現時点のバグ、その状態、および回避策の一覧については、Java Developer ConnectionSM メンバーは、<http://bugs.sun.com/bugdatabase/index.jsp> で Java Developer Connection Web サイトの「Bug Parade」ページを参照してください。新しいバグを報告する前に、このページをチェックしてください。すべての Message Queue バグがリストされているわけではありませんが、このページはある問題が報告済みかどうかを知りたい場合に活用できます。

注 - Java Developer Connection のメンバーになるのは無料ですが、登録が必要です。Java Developer Connection のメンバーになる方法についての詳細は、Sun の「For Developers」Web ページを参照してください。

新しいバグの報告や機能に関する要求を行うには、imq-feedback@sun.com 宛てに電子メールメッセージを送信してください。

一般的な問題

- SSL を使用した接続サービスでは現在、自己署名サーバー証明書、つまりホスト信頼モードしかサポートしていません。
- HTTP トランスポートを使用している JMS クライアントが、Ctrl-C の使用などにより突然終了した場合、ブローカがクライアント接続や関連するすべてのリソースを解放するまでに、およそ 1 分かかります。

この 1 分の間にクライアントのほかのインスタンスが起動し、同じクライアント ID、永続サブスクリプション、またはキューを使おうとした場合、そのインスタンスは「クライアント ID はすでに使用されています」の例外を受け取ります。この例外は、上記で説明した終了プロセスの副作用にすぎません。およそ 1 分経過後にクライアントが起動すると、問題は発生しません。

LDAP ユーザーリポジトリのプロパティ

Message Queue 3.7 UR1 では、LDAP サーバーをユーザーリポジトリとして使用するためのブローカ構成例は、`config.properties` のコメント領域に示されています。`default.properties` ファイルの LDAP ユーザーリポジトリの例は、コメントアウトされています。

以前に、`default.properties` ファイルに指定された LDAP ユーザーリポジトリプロパティの例のプロパティ値を使用した場合は、使用している JMS アプリケーションクライアントは JMS 接続を作成しようとしたときに、セキュリティ例外を受け取ります。これは、Message Queue 3.7 UR1 にアップグレードしたあとに起こります。

JMS クライアントが Message Queue 3.7 UR1 ブローカへの接続を作成しようとする、ブローカログでエラーとなり、JMS クライアントは次の例外を受け取ります。

```
SecurityException.  
20/Aug/2004:11:16:41 PDT] ERROR [B4064]: Ldap repository ldap property  
.uidattr not defined for authentication type  
basic:com.sun.messaging.jmq.auth.LoginException:  
[B4064]: Ldap repository ldap property .uidattr not defined  
for authentication type basic
```

回避策: 『Sun Java System Message Queue 3.7 UR1 管理ガイド』の第7章「セキュリティの管理」の指示に従い、ブローカプロパティ `imq.user_repository.ldap.uidattr` を設定します。

ブローカクラスタ

次の項目はブローカクラスタの使用に関連しています。

- このリリースでは、フル接続のブローカクラスタのみサポートされています。つまり、クラスタ内のすべてのブローカは、そのクラスタ内のほかのブローカと相互に直接やり取りする必要があります。`imqbrokerd -cluster` コマンド行引数を使用してブローカを接続する場合は、そのクラスタ内のすべてのブローカが含まれていることを確認してください。
- クラスタの一部であるブローカに接続されているクライアントは、現在 `QueueBrowser` を使用して該当するクラスタ内のリモートブローカにあるキューを検索することはできません。クライアントが検索できるのは、直接接続されているブローカにあるキューの内容のみです。クライアントは引き続き、クラスタ内のブローカのすべてのキューにメッセージを送信したり、キューのメッセージを消費したりできます。この制限によって影響を受けるのは参照だけです。
- ブローカクラスタでマスターブローカを使用しない場合、クラスタに追加されているブローカによって保存された持続性の情報は、クラスタ内のほかのブローカには伝播されません。
- ブローカクラスタで、開始していないリモート接続へのメッセージをブローカがキューに入れます (バグ **ID 4951010**)。

回避策: いったんその接続が開始すると、メッセージはコンシューマによって受信されます。コンシューマの接続が閉じている場合、メッセージは別のコンシューマへ再配信されます。

管理および設定

次に示す問題は Message Queue の管理および設定に関係するものです。

- Windows コンピュータで `CLASSPATH` に二重引用符が含まれている場合、`imqadmin` および `imqobjmgr` ユーティリティはエラーをスローします (バグ **ID 5060769**)。
回避策: このエラーメッセージは無視してかまいません。ブローカはすべてのエラーの通知コンシューマを正しく処理します。このエラーは、システムの信頼性には影響を与えません。
- すべての Solaris および Windows スクリプトで、`-javahome` オプションが、値に空白文字が含まれると動作しません (バグ **ID 4683029**)。

javahome オプションは Message Queue コマンドおよびユーティリティで使用する、使用する代替の Java 2 互換のランタイムを指定します。ただし、代替の Java 2 互換のランタイムへのパスには、空白文字を含めることはできません。次に例を示します。

Windows の場合 C:/jdk 1.4

Solaris の場合: /work/java 1.4

回避策: Java ランタイムを、空白文字が含まれない場所またはパスにインストールします。

- `imqQueueBrowserMaxMessagesPerRetrieve` 属性は、クライアントランタイムがキュー送信先の内容を検索するときに一度に取得することのできるメッセージの最大数を指定します。クライアントアプリケーションは常に、キューにあるすべてのメッセージを取得します。そのため、`imqQueueBrowserMaxMessagesPerRetrieve` 属性は、キューにあるメッセージを分割してクライアントランタイムに配信する方法に影響します。つまり、複数の小さいメッセージと少数の大きなチャンクのどちらに分割するかを指定します。この属性は、参照されるメッセージの合計数には影響しません。この属性の値を変更するとパフォーマンスに影響が出る可能性はありますが、クライアントアプリケーションの取得するデータ量が変動することはありません (バグ ID 6387631)。

ブローカの問題

次に示す問題は Message Queue ブローカに影響します。

- Windows 2000 で HTTPS `createQueueConnection` が例外をスローする場合があります (バグ ID 4953348)。

回避策: 接続を再試行します。

- Ctrl-C を使用してブローカをシャットダウンする場合、ストアが閉じられたあとにトランザクションがクリーンアップされることがあります (バグ ID 49344466)。メッセージまたはトランザクションの処理中にブローカがシャットダウンされた場合、「ストアが閉じられた後に、ストアメソッドがアクセスされました。」という内容のエラーをブローカが表示することがあります。

回避策: このエラーメッセージは無視してかまいません。ブローカはすべてのエラーの通知コンシューマを正しく処理します。このエラーは、システムの信頼性には影響を与えません。

- 送信先が破棄された場合、コンシューマが孤立します (バグ ID 5060787)。

送信先が破棄された場合、アクティブコンシューマが孤立します。いったんコンシューマが孤立すると、送信先が再作成された場合でもメッセージを受信しくなりません。

回避策: ありません。

- `JMSMessageID` を使用したメッセージ選択が機能しません (バグ ID 6196233)。

次のセレクトを変更します。

```
JMSMessageID = "ID:message-id-string"
```

次のように変更します。

```
JMSMessageID IN ('ID:message-id-string', 'message-id-string')
```

マニュアル

Message Queue 3.7 UR1 には、スタンドアロン製品が含まれていません。このリリースでは、Java Enterprise System インストーラを使用して Message Queue をインストールする必要があります。手順については、『Sun Java System インストールガイド』を参照してください。

- Message Queue の menu->Index に製品マニュアルの URL と『Read Me First』ファイルの場所が間違っで示されます (バグ ID 6515574)。

説明 Windows の「スタート」メニューで Message Queue エントリからマニュアルを選択すると、古いマニュアルが表示されます。

回避策: <http://docs.sun.com/app/docs/coll/1661.1> からマニュアルにアクセスします。

インストールに関する情報

- 「コントロールパネル」の「プログラムの追加と削除」に Message Queue ではなく Sun Java Enterprise System が表示されます。
- Config_MQ.txt ファイルに不正な情報が含まれています。次の項目では、エラーの一部が修正されています。
 - Message Queue で「自動設定」オプションと「手動設定」オプションが使用できず、管理者パスワードを設定するオプションが存在しません。
 - 「自動設定」オプションで、Message Queue ブローカ Windows サービスが自動的にインストールされ開始されます。
 - 「手動設定」オプションで、Windows サービスとして開始することなく、Message Queue ブローカをインストールできます。
- 空き容量が不十分なディスクにインストールしようすると、わかりづらいエラーメッセージが表示されます。たとえば、次のようなメッセージです。
「Error: -1603 Fatal error during installation.」
- インストール中に mq/bin がパスに追加されません (バグ ID 6515557)。

説明 Windows のコマンドプロンプトからは Message Queue の実行ファイルを見つけることができません。たとえば、imqcmd と入力すると次のエラーが発生します。「'imqcmd' is not recognized as an internal or external command, operable program or batch file.」

回避策: install-MQ-directory/bin を含むように PATH 変数を編集するか、install-MQ-directory/bin ディレクトリからアプリケーションを実行します。

- Message Queue のインストールでは、共有コンポーネントの自動インストールがサポートされません。

回避策: JDK Version 1.6.0 (1.6.0 の SOAP コンポーネント) を使用するか、Windows に Application Server をインストールすると、SOAP 共有コンポーネントがインストールされます。

再配布可能なファイル

Sun Java System Message Queue 3.7 UR1 には、バイナリ形式で使用および配布可能な次のファイルのセットが含まれています。

jms.jar	libmqcrt.so (UNIX)
imq.jar	libmqcrt.so (HPUX)
imqxm.jar	mqcrt1.dll (Windows)
fscontext.jar	

さらに、LICENSE ファイルおよび COPYRIGHT ファイルも再配布できます。

障害を持つ方のためのアクセシビリティ機能

このメディアの出版以降にリリースされたアクセシビリティ機能を入手するには、米国リハビリテーション法 508 条に関する製品評価資料を Sun に請求し、その内容を確認して、どのバージョンが、アクセシビリティに対応したソリューションを配備するためにもっとも適しているかを特定してください。最新バージョンのアプリケーションは、<http://sun.com/software/javaenterprisesystem/get.html> にあります。

アクセシビリティに対する Sun の取り組みについては、<http://sun.com/access> を参照してください。

問題の報告とフィードバックの方法

Sun Java System Message Queue で問題が発生した場合は、次のいずれかの方法でカスタマーサポートにお問い合わせください。

- Sun ソフトウェアサポートサービス <http://www.sun.com/service/sunone/software>
このサイトには、Knowledge Base、オンラインサポートセンター、ProductTracker へのリンクと、保守プログラムおよびサポートに関する問い合わせ先電話番号が記載されています。

- 保守契約を結んでいるお客様の場合は、専用ダイヤルをご利用ください。

最善の問題解決のため、サポートに連絡する際には次の情報をご用意ください。

- 問題が発生した状況や操作への影響を含む、問題の説明。
- マシン機種、OS バージョン、および製品のバージョン (問題に関係している可能性のあるパッチおよびその他のソフトウェアを含む)
- 問題の再現に使用した方法の詳細な手順。
- すべてのエラーログまたはコアダンプ。

Message Queue Software Forum

次のサイトでは、Sun Java System Message Queue フォーラムが利用できます。<http://swforum.sun.com/jive/forum.jsps?forumID=24>

ご参加を歓迎いたします。

Java Technology Forum

Java Technology Forums の JMS フォーラムも参考になる可能性があります。次のサイトにあります。<http://forum.java.sun.com>

このマニュアルに関するコメント

Sun では、マニュアルの改善のために、皆様からのコメントおよび提案をお待ちしております。

コメントを送るには、<http://docs.sun.com> にアクセスして「コメントの送信」をクリックしてください。このオンラインフォームでは、マニュアルのタイトルと Part No. もご記入ください。Part No. は、マニュアルのタイトルページか先頭に記述されている 7 桁または 9 桁の番号です。このマニュアルのタイトルは『Sun Java System Message Queue 3.7 UR1 リリースノート (Windows 版)』で、Part No. は 820-1809 です。

その他の情報

次のインターネットのサイトで、Message Queue の情報を参照できます。

- 関連文書
<http://docs.sun.com/prod/java.sys>
- プロフェッショナルサービス

- <http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- ソフトウェア製品およびサービス
<http://www.sun.com/software>
- Software Support Services
<http://www.sun.com/service/sunone/software>
- サポートおよびナレッジベース
<http://www.sun.com/service/support/software>
- Sun サポートおよびトレーニングサービス
<http://training.sun.com>
- コンサルティングおよびプロフェッショナルサービス
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- 開発者向けの情報
<http://developers.sun.com>
- Sun 開発者サポートサービス
<http://www.sun.com/developers/support>
- ソフトウェアトレーニング
<http://www.sun.com/software/training>